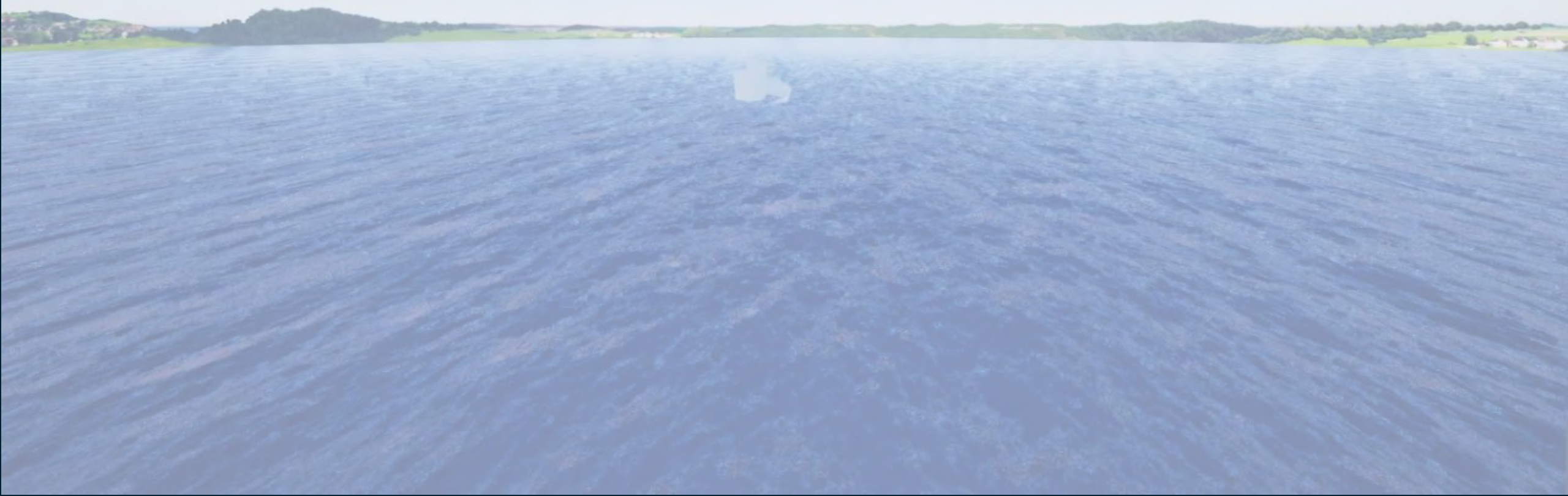
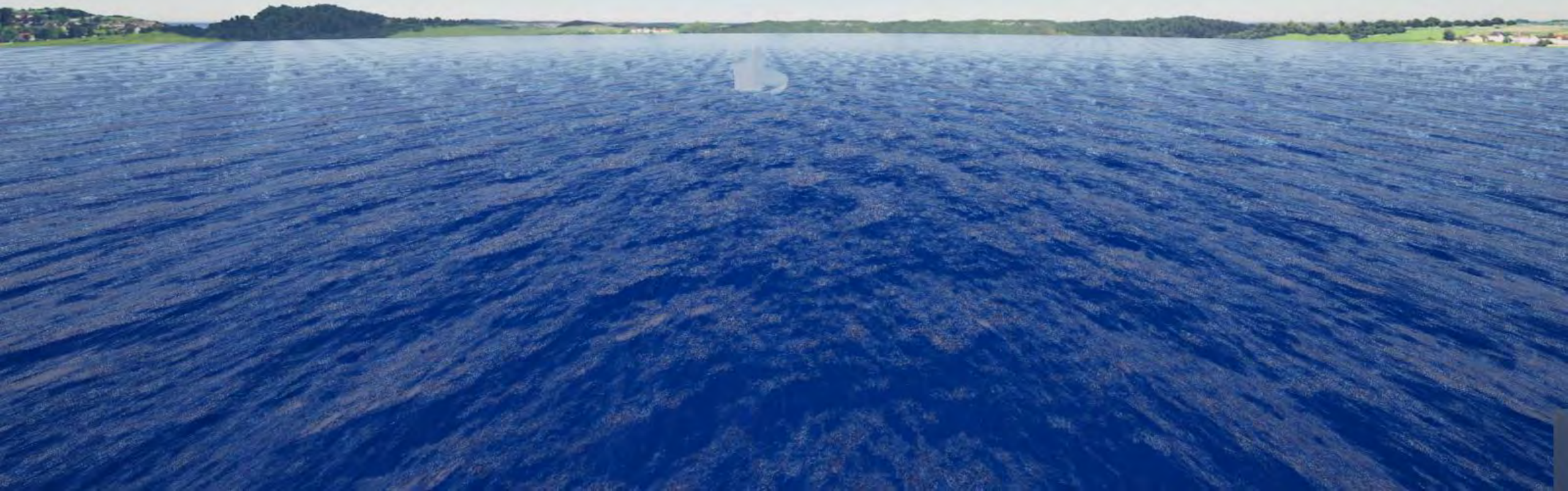


ふと水平線のかなたに目を向けると、

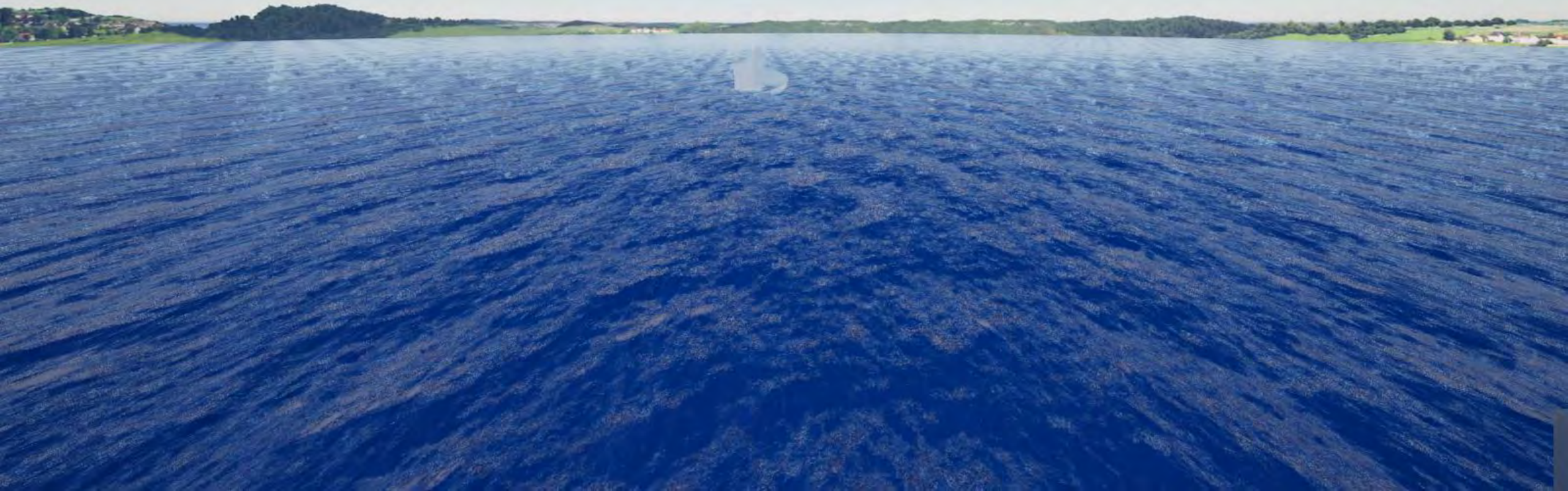
ぼんやりと見えるそれは、

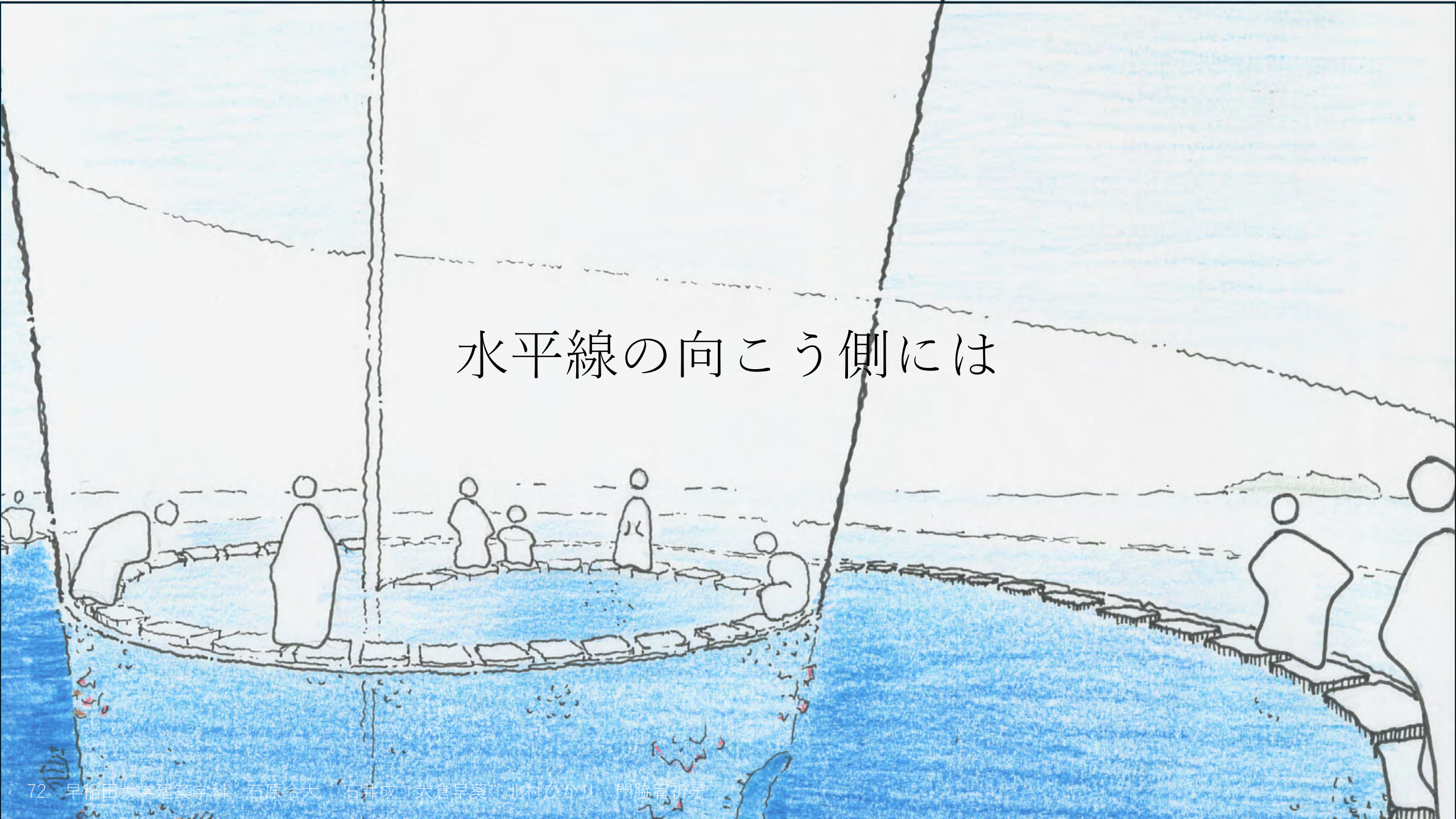


意識の中に突如現れたオブジェクト



それはなんのための、どんな意味をもったものなのか





水平線の向こう側には

背景

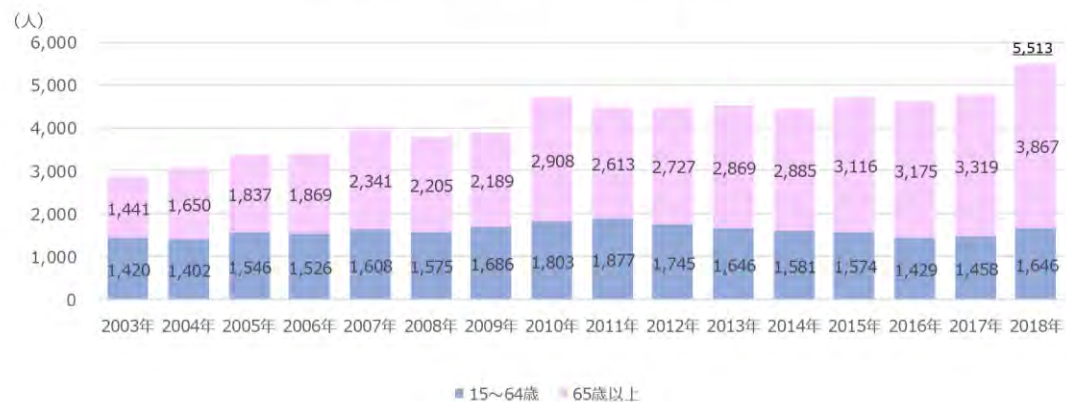
孤独死に関する統計データ①

第1回検討会資料再掲

国土交通省

- 東京都区部で発生した孤独死は増加傾向にあり、2018年は5,513件で、うち65歳以上は約7割（3,867件）となっている。

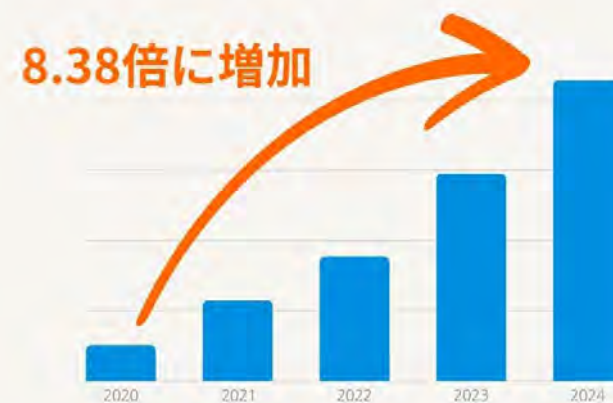
【東京都区部における年齢階級別の孤独死数の推移】



引用：厚生労働省HP

・ 孤独死の増加

海洋葬件数推移



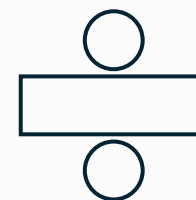
シーセレモニー

引用：海洋記念碑シーセレモニー

・ 海洋葬件数の増加

- ・ 現代の日本の核家族化や少子高齢化による時代変化に沿った建築の形態を思考、制作する
- ・ 建築的観点から人の感じる死者の面影を、個々の墓場を作らずに保存する方法を見出す
- ・ 建築から派生する新たな生死の捉え方を思考する

四則演算からどのような散骨堂が
考えられるだろうか？

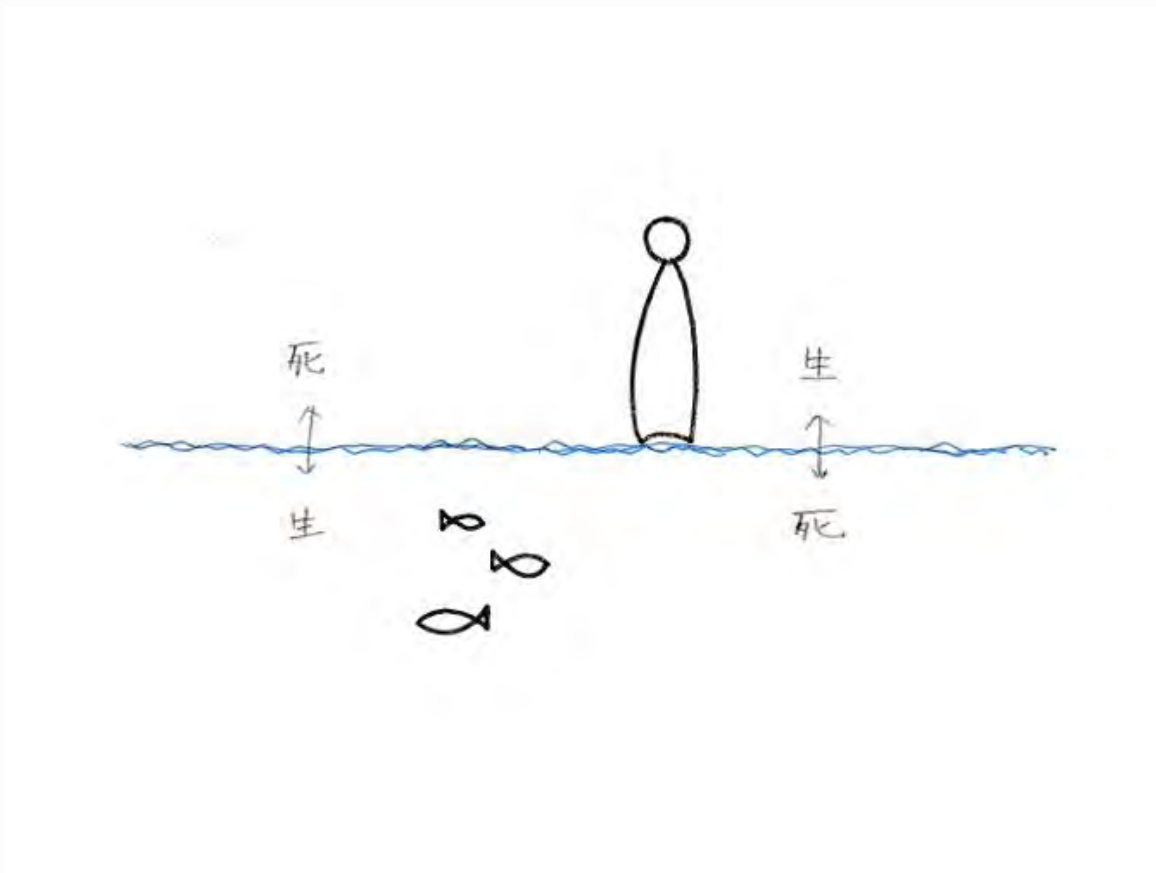


敷地



わずかに見える位置に配置することによる偶然の演出
(撮影：2025年2月20日)

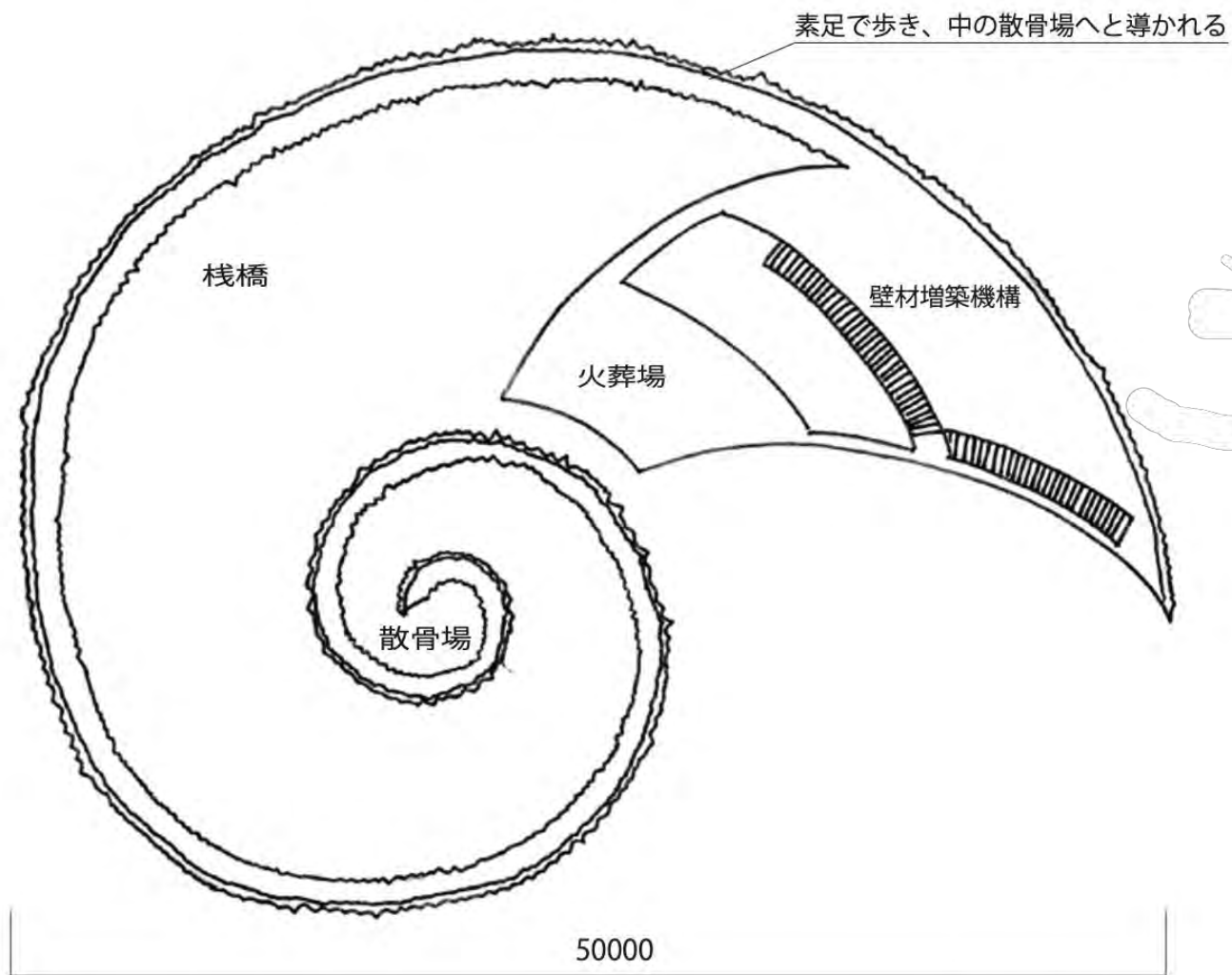
設計手法



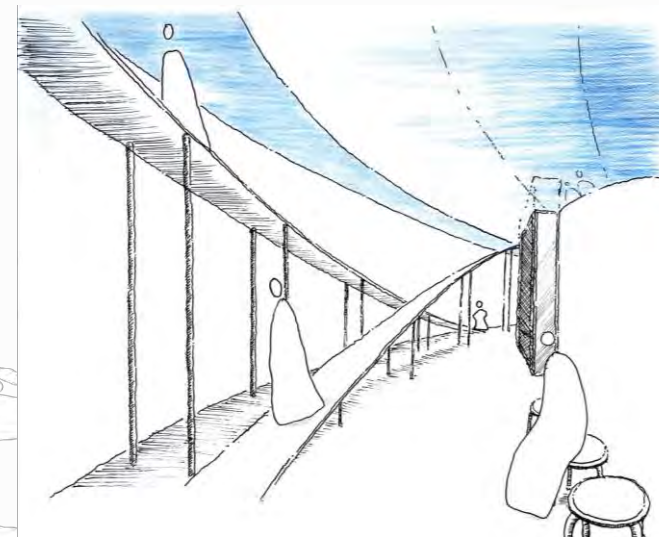
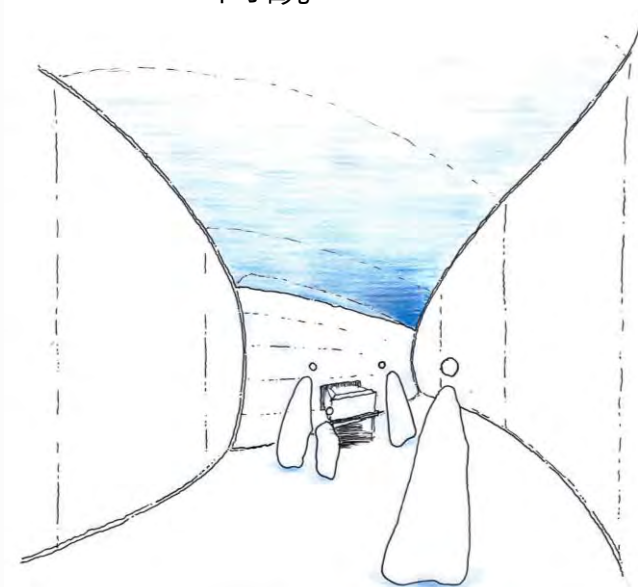
内部と外部、空と海の境界をぼかす



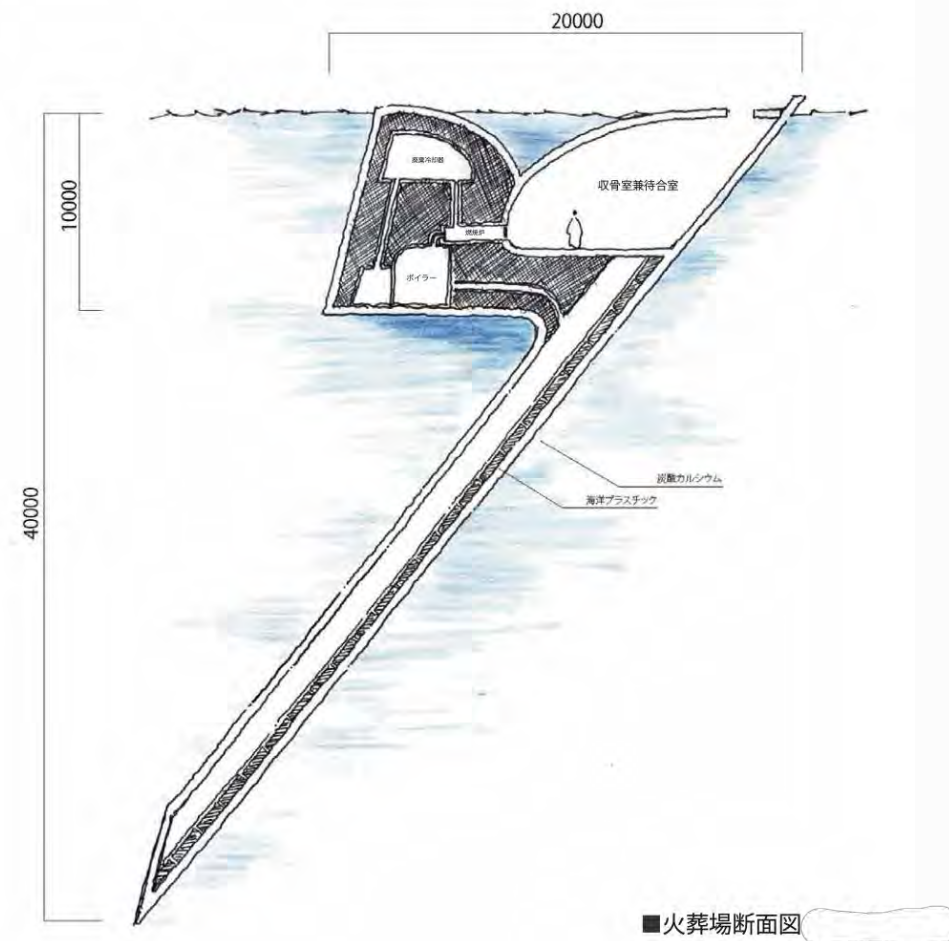
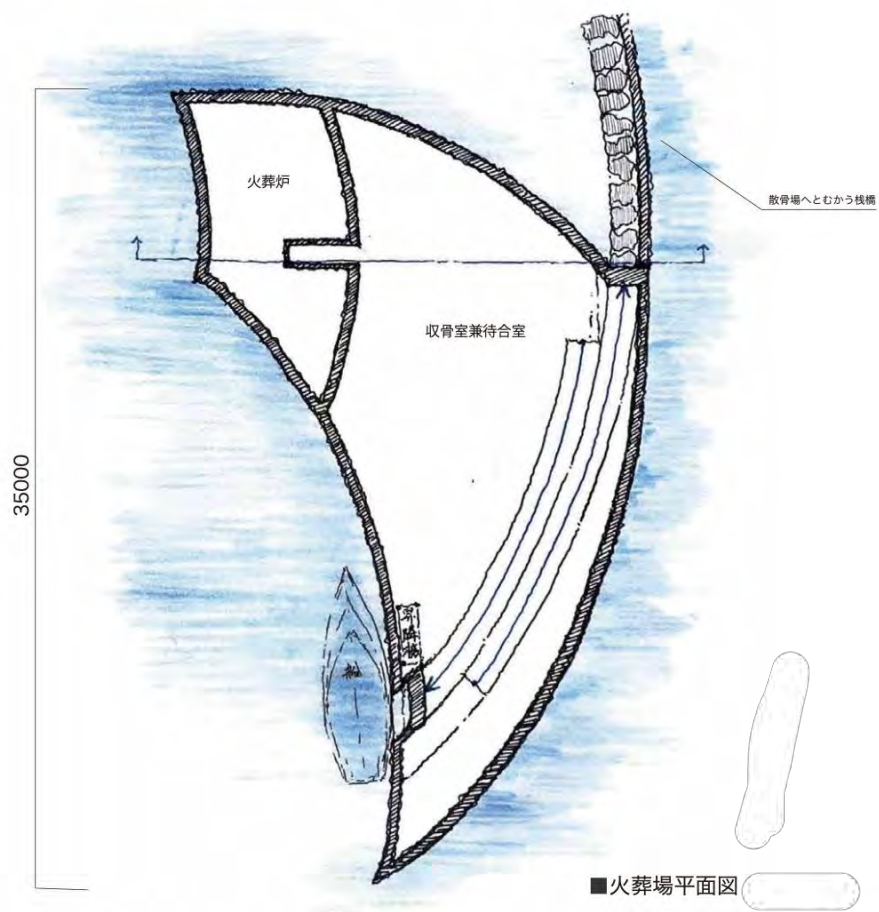
生死の境界を曖昧にする

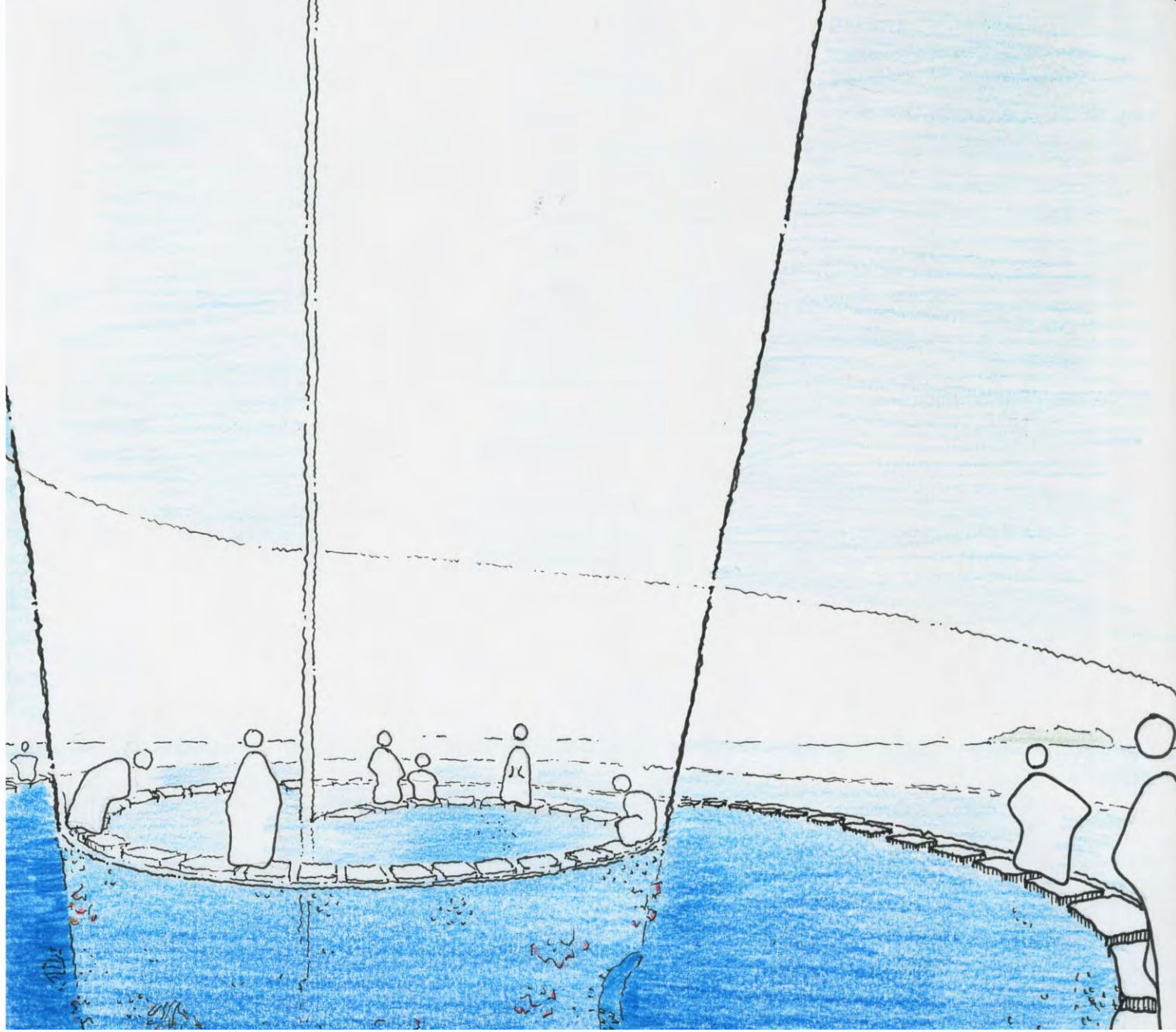


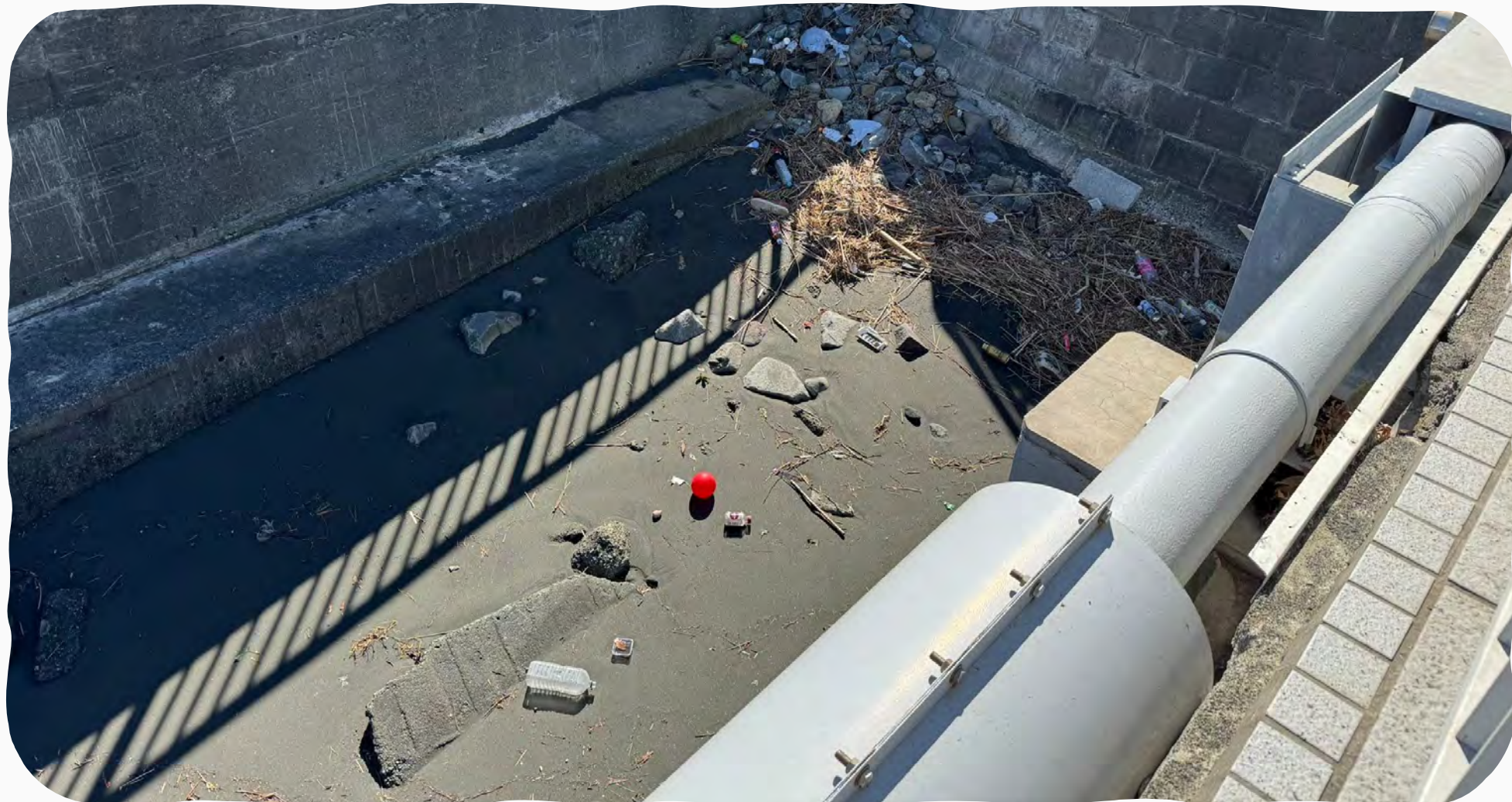
■ 平面図 S=1:250

■ 散骨場へ続くスロープ
○ 内観パース

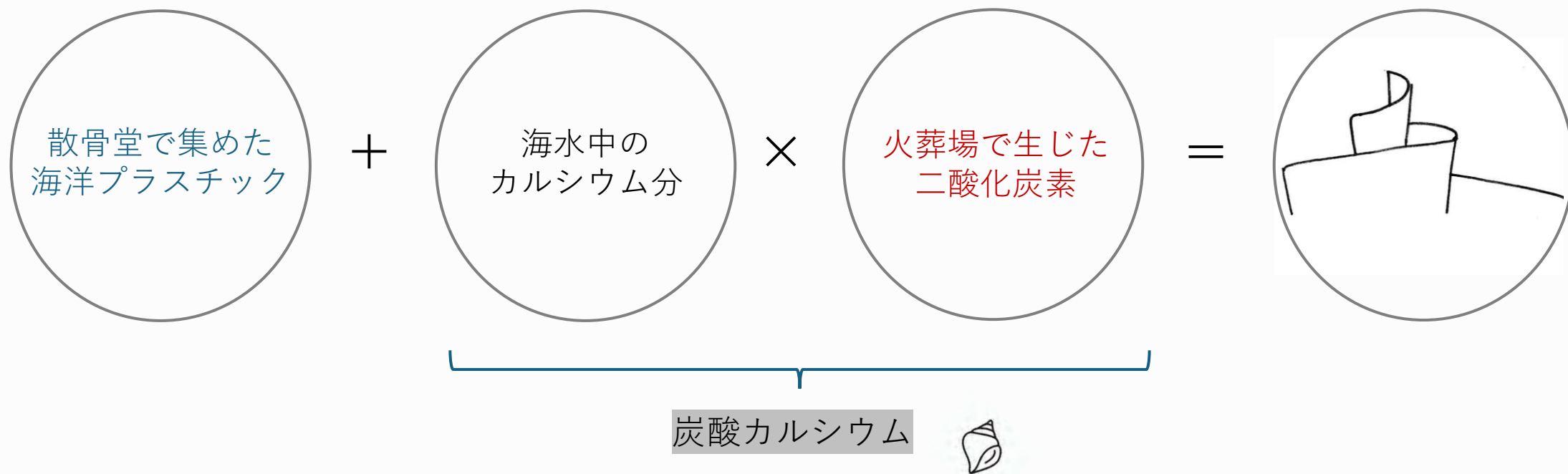
■ 火葬場 内観パース







江の島付近の敷地調査にて確認された
漂着した海洋プラスチックごみ
(撮影：2025年2月20日)



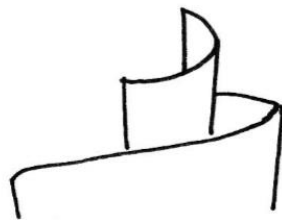
散骨堂から集めた海洋プラスチックを、火葬場で生じた二酸化炭素と海水中のカルシウム分の反応により生成した炭酸カルシウムでコーティングする。



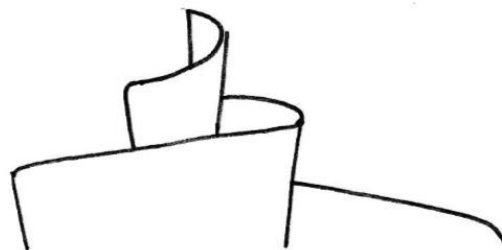
○

建築物の増築

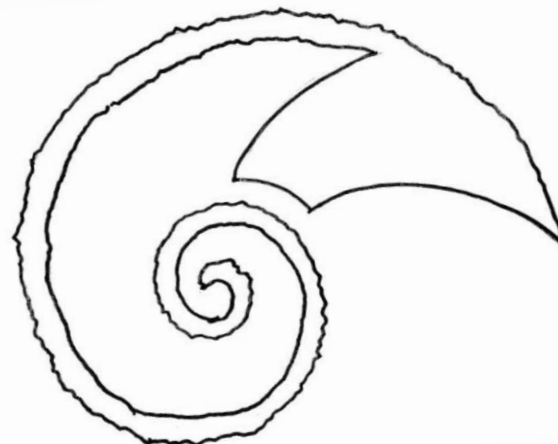
phase1



phase2



phase3

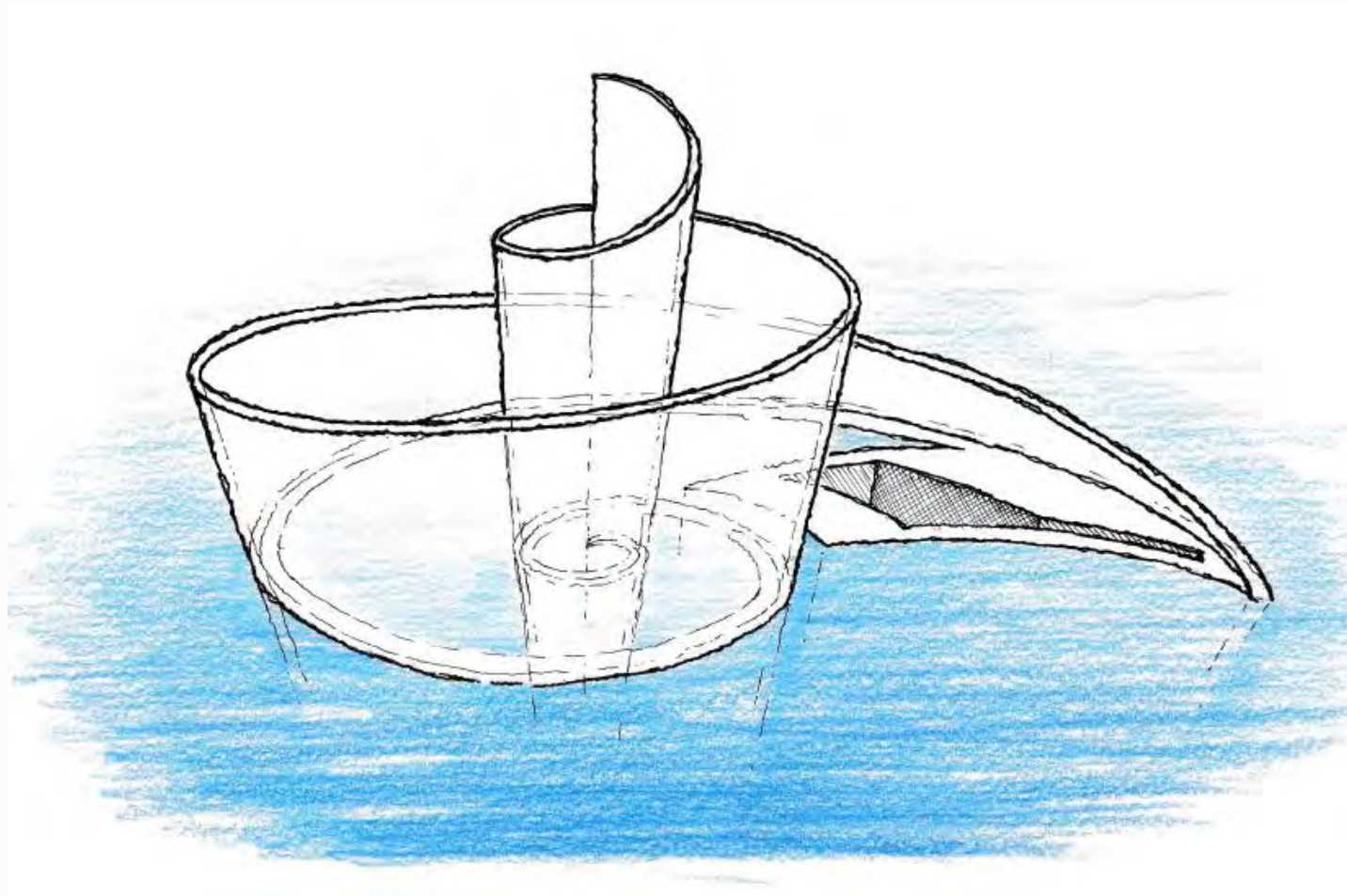


炭酸カルシウムでコーティングしたプラスチックを壁材として、
巻貝のように継ぎ足していく(+)



○ ○ 記憶の積層

時間の経過と共に巻きが足されることで、徐々に大きくなる。
沿岸からこの建築を眺めたとき、ふと心に残る。

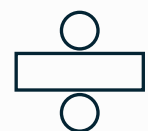


私たちの考える四則演算

 ∴ 建築物の増築

 ∴ 視点の引き

 ∴ 記憶の積層

 ∴ 視点の分割



散骨堂が故人を思い起こさせる装置となる